

民家等に住み着くこともあるので、住民に気づかれやすい。妙見調査地に隣接する県道上を滑空する哺乳類の目撃情報は、おそらく本種であろう。

今回の調査において巣箱内の点検では哺乳類を直接確認することは全くできなかったが、巣箱自動撮影法によってヤマネやムササビ等を確認できた。樹上性哺乳類の生息確認法として巣箱自動撮影法は効果が高いことは鈴木ほか(2008)や安田・田中(2008)、安田・栗原(2009)、大野ほか(2010)、坂田ほか(2011)で示されていたが、本調査でも改めて確認された。今後、県内各地の森林についてその履歴と現状を把握するとともに、巣箱自動撮影法によってヤマネやニホンモモンガの生息情報を集積し、好適生息地や潜在的な生息地を推定することによって両種の保全に繋げていきたい。

## 摘 要

- 1 熊本県八代市竜峰山周辺の立神(標高40~130m)、妙見(90~140m)、古麓(標高80~120m)で巣箱自動撮影法を行い、樹上性哺乳類のうちヤマネとムササビの生息を確認した。ニホンモモンガのものと同定される痕跡は確認できたが確実な生息記録は得られなかった。ムササビは当地域には広く生息していることが確認された。
- 2 市街地に近く、常緑広葉樹の植林地や若い二次林でヤマネが確認されたことから、本種は様々な森林に対応して生息する能力があることや、その分布が標高や森林植生よりも土地利用履歴と強い関係があることが推定された。
- 3 巣箱自動撮影法は樹上性哺乳類の生息確認調査法として効果的であり、今後もこの方法を用い、県内各地において調査を継続する予定である。

## 引用文献

- 阿部 永・石井信夫・伊藤徹魯・金子之史・前田喜四雄・三浦慎悟・米田政明. 2008. 日本の哺乳類 改訂2版. 東海大学出版会, 秦野, pp 206.
- 壁村勇二・久保田勝義・鍛冶清弘・椎葉康喜・井上幸子・馬淵哲也・内海泰弘・榎木 勉. 宮崎演習林における哺乳類目撃数のモニタリング. 2010. 九州大学農学部演習林報告91: 29-33
- 木場頼孝・江藤 毅・森田哲夫・岩淵真奈美・湊 秋作. 2008. 大崩山におけるヤマネの生息確認. 宮崎県総合博物館総合調査報告書「県北地域調査報告書」: 35-44.
- 熊本県希少野生動物植物検討委員会. 2009. 改訂・熊本県

- の保護上重要な野生動植物—レッドデータブックくまもと2009—. 熊本県, 熊本, pp 597.
- 九州森林管理局. 2009. 平成20年度白髪岳国有林周辺希少猛禽類等生息調査等報告書. 熊本県, pp 27.
- 湊 秋作・松尾公則・田中龍子・相川千里・志田富美子・安東 茂・中西こずえ. 1998. 長崎県多良岳のヤマネ. 哺乳類科学37: 115-118.
- 中園敏之. 1992. 矢部周辺県立自然公園とその周辺における鳥相・哺乳動物相. 熊本野生動物研究会誌(1): 1-17.
- 中園敏之. 1996. 蘇陽町脊椎動物目録・蘇陽町史自然編. 445-470 pp. 熊本.
- 大久保慶信・江藤 毅・林 臨太郎・加藤悟郎・岩淵真奈美・湊 秋作・森田哲夫. 2011. 県央地域における希少げっ歯類の生息確認. 宮崎県総合博物館総合調査報告書「県央地域調査報告書」: 55-59 pp.
- 大野愛子・安田雅俊・井上昭夫. 2010. 菊池溪谷の野生哺乳類—吉倉・荒井(1982)の調査から30年後の状況—. 熊本野生動物研究会誌(6): 1-12.
- 坂田拓司・長尾圭祐・中園敏之. 1996. 五木五家荘県立自然公園とその周辺における哺乳動物相. 熊本野生動物研究会誌(2): 17-37.
- 坂田拓司・中園敏之・歌岡宏信・田上弘隆・天野守哉. 2009. 熊本県五家荘と内大臣における巣箱によるニホンモモンガの生息確認. 熊本野生動物研究会誌(5): 11-20.
- 坂田拓司・安田雅俊・長峰 智. 2010. 熊本県水俣市大川におけるニホンモモンガ *Pteromys momonga* とヤマネ *Glirulus japonicus* の確認. 熊本野生動物研究会誌(6): 23-28.
- 坂田拓司・安田雅俊・中園敏之. 2011. 熊本県内の樹上性齧歯類を対象とした巣箱調査と巣箱自動撮影調査. リスとムササビ(26): 8-12.
- 讚井孝義. 2001. シジュウカラの巣箱に入ったヤマネ. 森林防疫50(3): 1.
- 鈴木 圭・永井靖弘・谷口絵梨・岡本英里奈・広瀬絵美・小川 博・天野 卓・安藤元一. 2008. 小型樹上性齧歯類を対象とした生息確認法の開発. 2008年日本哺乳類学会講演要旨集: 122.
- 田中 聡. 1996. ヤモリ・トカゲモドキ類. 日本動物百科(5)両生類・爬虫類・軟骨魚類. 65-68. 平凡社, 東京.
- 矢野真志. 2009. 愛媛県におけるニホンモモンガ *Pteromys momonga* の生息記録. リスとムササビ(22). 2-8.

- 安田雅俊. 2007. 絶滅のおそれのある九州のニホンリス, ニホンモモンガ, およびムササビ —過去の生息記録と現状および課題—. 哺乳類科学47: 195-206.
- 安田雅俊. 2008. 速報: 雁俣山でニホンモモンガを確認. Sign Post 23(4): 1.
- 安田雅俊・田中 浩. 2008. 中国地方と九州地方のニホンリスとニホンモモンガの研究と課題.—日本哺乳類学会2008年度大会自由集会報告—. リスとムササビ(21). 15-17.
- 安田雅俊・栗原智昭. 2009. 自動撮影カメラで記録された宮崎県椎葉村のニホンモモンガ. 熊本野生生物研究会誌(5): 31-35.
- 安田雅俊・坂田拓司. 2011. 絶滅のおそれのある九州のヤマネ —過去の生息記録からみた分布と生態および保全上の課題—. 哺乳類科学51: 287-296.
- 安田雅俊・坂田拓司. 2012. 熊本県におけるヤマネ *Glirulus japonicus* の分布. 熊本野生生物研究会誌(7): 25-28.
- 吉倉 眞. 1969. 人吉球磨五木五家荘地区の鳥獣類. 人吉球磨五木五家荘地区自然公園候補地学術調査報告書. 68-105. 熊本県, 熊本.
- 吉倉 眞. 1977. 阿蘇の動物(脊椎動物). 阿蘇国立公園学術調査報告書. 1-36. 熊本.
- 吉倉 眞. 1988. 熊本の陸生哺乳動物(2)分布と実態. 土籠(13): 100-117.

## Summary

We studied the distribution of arboreal small mammals by a camera trapping method combined with nest box installed in tree trunk. Study sites were three forest stands at low elevations (40-140 m above sea level) around Mt. Ryuhou, Yatsushiro City, Kumamoto Prefecture, Japan.

We confirmed that the Japanese dormice and the Japanese giant flying squirrels inhabited the study area by photos. Although we could not obtain any photos of the Japanese flying squirrels, we found some possible traces of the species. The vegetation where the Japanese dormice inhabited was a young broad-leaved evergreen forest.

Results suggest that the Japanese dormice can survive in young secondary growth at low elevation after human disturbances. We hypothesized that the distribution of Japanese dormice strongly relates with the history of land use rather than the altitude or vegetation.

The method we used in this study was effective to conform the presence/absence of arboreal small mammals. We will continue the study using the same method in various places in Kumamoto Prefecture.

---

受付日: 2012年3月14日 受理日: 2012年5月24日

連絡先: 坂田拓司

〒860-0073 熊本県熊本市西区島崎2-37-1

熊本市立千原台高等学校

alicechan@mtj.biglobe.ne.jp